



明るく たくましい 明世の子

ビカリア

令和6年度
瑞浪市立明世小学校
NO. 2
R6. 4. 30

雨の日には雨の中を

学校への坂道は、雨の日にはまた違った楽しみがあります。傘をさして、下ばかり見ていた子も、坂道に落ちた花弁を見て、頭上に花が咲いていることに気付きます。側溝を流れる水に葉っぱを流してみることもできます。また、雨上がりの野山は、みずみずしい緑でいっぱいです。雨が降り、気温が高くなることで、植物が大きく育っていきます。

4月に、大雨が降った日がありました。学校下の横断歩道のあたりが、川のようになっていました。(たまった落ち葉のせいで側溝から水があふれていたもので、取り除きました。)長靴の子は、楽しそうに、じゃぶじゃぶと渡っていきます。靴の子は、跳ねるように渡ったり、浅そうなところを選んだりして渡りました。普通に歩いて、靴の中まで濡れてしまった子もいます。

この、『「浅そうなところ」を選ぶことができる子』になることが、たくましく生きる力につながると考えます。

まず、歩くこと。雨の日には、雨の中を歩く。靴の中まで濡れる体験をすると、次は長靴にしようかと考える。靴下の替えを、持っていこうと考える。濡れないように渡った上級生を見て、道路には、わだちがあって、浅いところと深いところがあると知る。

水遊びや泥遊びをたくさんする。水たまりで遊ぶことで、浅いものは強く踏めば、水がはねて靴が濡れない、深いものはそれができない、と知る。そういう実験をすると、周りの子に水と迷惑がかかることを知る。時には、喧嘩になる。分団で登校するときには、実験や遊びをしてはいけないことを知る。上級生が、上手に喧嘩を仲裁してくれるのを見て、上級生の役割を知る。

庭や砂場で水を流したりダムを作ったりする。わざとダムからあふれさせて洪水を起こす。水の流れには、早いところとゆっくりなところがある、と気づく。高台が安全なことを知る。

お手伝いをする。お風呂の水を抜くときに、水圧の強さや、排水の水流の強さを知る。排水溝のごみを取り除かなければならないことを知る。ホースをつまんで水を遠くに飛ばして水やり。

雨の日は雨の日に、家庭生活ではその中でできる体験をすることが、考える力・生きる力を高めるといえるのではないのでしょうか。

子どもは、体験や失敗を通して成長します。どうしたらよいか考えたり工夫したりするようになります。また、遊びを通して、考える力、工夫する力を高めます。思いつく、試して成功する、この時の幸せ感が、勉強が分かった、工夫して解いた時の喜びを感じる力につながり、いずれ、自ら勉強に向かう力になっていきます。

友達と喧嘩する。仲直りする。一緒に歌って、楽しさを知る。クラスメイトの考え方のよさを知る。自分の成長に気付いてくれる仲間がいる。自分が係の仕事や手伝いをすると、周りの人が喜んでくれる。計算や漢字といった「学習」はもちろん大切ですが、こうした体験、人を見て、人と接して「学ぶ」ことが、社会と正しくかかわりながら生きる力につながると考えます。

子どもたちには、まずやってみることに、考えを伝えること、仲間と話し合っただけよりよい答えを見つけること、仲間のよさを見付けること等を体験させたいです。学級の仲間はもちろん、縦割り活動や児童会活動、地域との学習等、いろんな人と関わり合いながら学ぶ場を大切にしています。

